

最優秀賞(五・六年の部)

がんばれ、お父さん

玉川村立玉川第一小学校 五年 須藤 美月

ツナ、シヤケ、すじこなどおにぎりの種類はたくさんある。どれもおいしくていつも選ぶのにまよっちゃうけれど、私のナンバーワンはやっぱ塩おにぎりだ。お米のあまさと塩のしよっぱさがまぎって、最高。シンプルだけど、毎日食べてもあきないし、パワーがでる。おにぎりって本当にすごい。私の家で食べているお米は、祖父母が作ったものだ。今年からは父も加わって、お米作りをしている。昨年までも、田植えや稲かりの時期には手伝っていたが、今年はお米の周りの草かりや水の管理など、細かい仕事も祖父に教えてもらいながら取り組んでいる。今は毎日暑い中で草かりをしているそうだ。

「つかれた。」と、真っ黒に日焼けしてあせたくで帰ってきた父。そんな父に何かできる事はないかと思った私は、妹とお昼ごはんは父の好きな梅おにぎりを作った。はじめは三角形にしようとしたが、上手にできずにやめた。母のようにきれいではないけれど、ありがたいの気持ちをたっぷりこめてにぎった私のおにぎりは、おつきくてたわら型。妹のはちっちゃくてボール型。おたがいにおにぎりをみてふきだした。

「お父さん、これ食べたなら元気モリモリになっちゃうね。」と母が言って、そうだといいなと私は思った。父が食べているすがたをドキドキしながら見ていると、「おいしい。」と言って喜んでくれたのでとてもうれしかった。

私は毎年、春の種まきの時に手伝いに行っている。もみをまく箱をローラーの上にならべる仕事は私の担当だ。山積みになっていく箱は、ならべてもならべてもなかなかへらずと中でつかれてやめてしまいたくなる時が何度もあった。種まきはお米作りのほんの一部。お米が食べられるようになるまでは、たくさん時間と手間がかかるのだ。だから、米つぶ一つ一つには神様がいると言われているのだと思った。私は父や祖父母のすがたを見てお米づくの大変さを知り、心をこめて育てたお米を残さず大事に食べなくちゃと改めて強く思った。

今、日本ではお米が不足しているとニュースでやっていた。お店に行ってもなかなか買えないらしい。お米は、家にあつてあたり前だと思っていた私には、おどろきのニュースだった。また、お米農家もへっていると聞いた。そんな中、お米作りをやろうと決心した父はすごいし、かっこいいと思った。

父が作ったお米が全国に届けられ、そのお米を食べた人がおいしいと笑顔になってくれたら、とってもすてきな事だと思う。私も少しでも力になれるようにがんばりたい。